

茶の産地の5 せわめ詰詰

県商工会連

県商工会連合会は県内5産地の茶葉をセットにしたギフト商品「五咲(いつつぎき)」を開発した。十三日開幕の贈答品・生活雑貨の国際見本市「東京インターナショナル・ギフトショー」(東京都)への出展や、同連合会のホームページでのテスト販売を通して、市場の反応をみる。

調査踏まえ開発

「五咲」市場に問う

県内産の茶葉の消費拡大と、点在する中間産地ブランドの強化が目的。

二十〜三十代女性をターゲットに、気軽に利用できる贈り物として商品開発を進めてきた。

静岡市清水区、岡部、中川根、菊川、森の事業者の茶葉を使った。それぞれ小袋に入れ、五角形の箱に花びらのように敷き詰めた。デザインとパッケージは、それぞれ静岡市内の事業者が担当した。

各茶葉は「粹」「癒」などと名付け、「上質なお菓子を食べながら」「心身ともにリラックスした気分」などと茶を飲みたくなる生活情景を提案した。産地の位置や特徴を紹介したリーフレットも入れた。首都圏の専門店、百貨店などでの販売を想定した。一袋七ッ入

県内5産地の茶葉をセットにした「五咲」



りで三千五百円。

国の小規模事業者新事業全国展開支援事業の指定を受けた。都心の料理教室に通う生徒を対象にした市場調査や、県立大情報学部の生徒に行ったアンケート調査の結果を商品に反映した。

異業種交流会に
経営者ら130人

住友生命静岡支店

住友生命静岡支店(高口毅支店長)はこのほど、静岡市内で「スミセイ異業種交流会」を開いた。

県中部地区の企業経営者約百三十人が参加し、経営者セミナー講演を聴講した後、交流した。

セミナー講師は日経ビジネス編集長の井上裕氏が務め、「日本経済再成長の条件」と題して講演した。井上氏は激変の時代を勝ち抜くため、「企

ギフトショーの出展ブースでは商品とともに茶葉の展示、日本茶インストラクター協会県支部の会員による茶の入れ方の実演、茶香炉で香りを漂わせる演出などで、茶の魅力を伝える。

同連合会は「市場の反応をみながら改良を加えたい。他産地にも注目が集まるきっかけになれば」と期待する。

